

令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会会議録

1 開催日時

令和3年7月28日（水）午後6時30分～午後7時25分

2 開催場所

花巻市役所本庁舎3階 302会議室

3 出席者

花巻市在宅医療・介護連携推進協議会委員 11名

一般社団法人花巻市医師会 三浦良雄、花巻市歯科医師会 狩野敦史、花巻市薬剤師会 坂本秀樹、岩手県立中部病院 星野彰、岩手県訪問看護ステーション協議会 平澤利恵子、花巻地区看護管理者会 佐藤久美子、岩手中部地域リハビリテーション広域支援センター 上川亜矢、花巻市ケアサービス事業所連絡協議会 狩野隆史、社会福祉法人花巻市社会福祉協議会 根子裕司、岩手県中部保健所 菊池直樹、花巻市中央地域包括支援センター 伊藤文子

市 6名

健康福祉部長 高橋靖

健康づくり課長 長山義博

長寿福祉課 久保田和子、伊藤幸恵、山口裕樹、小原香子

4 委嘱状交付

（久保田課長補佐）

開会に先立ち、新たに就任された2名の方に委嘱状を交付する。

委嘱状について、市長に変わり、健康福祉部長の高橋より交付する。委員の皆様については、お席のほうでお待ちいただきたい。

任期は、令和3年7月16日から令和3年7月31日までとなっている。なお、新たに委員に就任された佐々木千恵美様については、本日欠席との御連絡をいただいている。

5 議事録

（久保田課長補佐）

ただいまより、令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会を開会する。皆様におかれては、御多忙のところ出席いただき感謝申し上げます。開会に当たり、健康福祉部長の高橋より御挨拶を申し上げます。

(高橋部長)

皆様、御仕事終わりからのお集まりで、大変お疲れ様である。御多忙の中、令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会に御出席をいただき感謝申し上げます。

また、日頃から関係の皆様には、高齢福祉、介護保険、健康推進、そして昨年からは新たに新型コロナウイルスの感染症対応というところまで含め、多大なる御協力、御支援いただいているということにつきましては感謝申し上げます次第である。

在宅医療介護連携推進は、ご案内のとおり医療と介護の両方が必要な状態になった場合において、高齢者と御家族が望む場所で、人生の最期まで過ごせるよう、切れ目なく支援し続ける体制の整備を目的として行うものである。花巻市においては、この連携推進の取組を進めるに当たり、その中核となる在宅医療介護連携拠点を市のほうに設置し、その上で、関係機関から選出された在宅医療介護連携推進委員とともに、連携推進に係る様々な課題の解決に向けた検討と思考を重ねる中で、医療介護の情報共有シート、高齢者の口腔ケアガイドブック等の連携に繋がるツールの開発、医療・介護の情報提供システムである、ケアプロnavi・ケア倶楽部の開設など、連携の仕組みづくりを今まで構築してきたところである。

これまでは連携推進いただく課題の解決を主に取組を進めてまいったが、その上で、さらに深めるべき取組の評価あるいは分析をしていなかったということが今までの反省点である。そういうことを含め、より連携推進に寄与する拠点の在り方等を、今後皆様とともに、考えてもらいたい。

今年度の連携推進であるが、今般の新型コロナウイルス感染症の状況から、集まる形での大きな講演会あるいは研修会等の取組が難しいということも今時点では考えられる。その中で各関係機関や団体ごとに必要な取組は実施していただき、その上で着実に連携推進について、今年度も進めたいと考えているので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

協議会の各委員の任期は、先ほど申し上げたように7月31日までということで、日がないが、皆様には次回についても、委員としてお願いできる場合は引き続きお願いしたい。

私のほうからは以上で挨拶とさせていただきます。

(久保田課長補佐)

続きまして、本協議会の会長である三浦様より御挨拶を頂戴いただき。三浦様よろしくお願いする。

(三浦会長)

本日は、仕事終わりのお忙しいところご参集いただき誠にありがとうございます。在宅医療・在宅介護は書面会議などで、直接意見を交わすこともなくやってきた。今日は直接皆様と会議ができるということで、非常に嬉しく思っている。実は花巻市内のコロナ感染予防のことで、在宅医療、在宅介護ということに関しては、後回しにして集中できていなかった部分もある。今年は、これから大事なことは皆さんと考えて論議していくことになると思われる。

(久保田課長補佐)

本来はここで委員と事務局の入れ替わりがあるので、紹介したいところではあるが、限られた時間のため、御手元に配っている出席者名簿にかえさせていただく。本日の会議は、熊谷委員、澤田委員、佐々木委員の3名が欠席となっているが、委員14名中過半数の出席をいただいております。花巻市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立することを報告させていただく。この会議は花巻市審議会等の会議の公開に関する指針により公開する会議となる。会議の傍聴を希望する方がいる場合はこれを認めること。また、会議資料及び会議録については、ホームページで公開することを申し添える。

それでは協議に移らせていただく。会議の進行については設置要綱第5条第2項の規定により、会長の三浦様よろしく願います。

(三浦会長)

次第3番の協議に入る。

始めに、(1) 令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について、事務局より説明を願います。

(伊藤係長)

令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の取組について説明をさせていただく。

(以下、資料1の資料に沿って説明)

(三浦会長)

今の説明について、委員の皆様からご意見・質問があれば願います。

意見がなければ次に(2) 令和3年度在宅医療・介護連携推進事業計画について、事務局より説明を願います。

(山口主任)

令和3年度在宅医療・介護連携推進事業計画について説明させていただく。

(以下、資料2、参考資料に沿って説明)

(三浦会長)

今の説明について、何かご意見ご質問はあるか。

(久保田課長補佐)

質問ではなく資料の訂正を2か所お願いしたい。資料2-2-の2に書いてある「花巻市における在宅医療介護連携拠点の評価及び今後の在り方の検討」の➡から数えて4行目に「平

成 30 年度から」と書いてあるところを「平成 29 年度から」に訂正をお願いする。もう一か所、参考に「今後の在宅医療・看護」とあるが、「看護」ではなく「介護」である。

山口から、ボリュームがあることを短くまとめて説明した。私も平成 29 年から皆様とともに取組を進めてきたが、在宅医療に係る課題は膨大にあり、まずその課題を一つ一つ整理し、どのように課題を解決するかを優先的に進めてきた。その中で振り返りをしてこなかったのが、これまでの取組の成果を 1 年掛けて振り返りたいというのが、1 点目。

花巻市は拠点として、8 つの取組を進める事務局から進捗管理など全てを背負ってきたが、市には現場がないため、現場にかかる部分は限界あると感じている。取組の振り返りから、拠点の効果的な在り方を皆様と共に考えたいと思い、今年度の連携推進の柱の一つに上げたところである。

(三浦会長)

協議はこの二つだけであり、協議を終わってもよろしいか。

(久保田課長補佐)

皆様から、特に 2 番目についてなど、御意見伺えればと思う。

(三浦会長)

狩野隆史先生何かご意見あるか。

(狩野隆史委員)

資料 1、医師会の今後に向けた課題の③にあるとおり、家族の負担が多く、ロングショートを使ってくる方が増えているのは本当にそのとおりだと思い、痛切に感じている。ショートステイでも期間を延ばす方が増えているので、これはどうにかしないといけないと思っている。施設入所も満床のため、そこを考えていきたい。

(三浦会長)

各委員から、思ったことやこれからの推進会議について思うところを述べていただきたい。歯科医師会会長の狩野敦史先生から順番にお願いします。

(狩野敦史委員)

今の説明と前の議事録から気になるところがあり一つ聞きたい。2 年ほど前の会議で、在宅医療介護連携推進会議と協議会のバランスのことで、1 年に 1 回しか協会議をやらない、何のために会議をやっているんだという話があり、インターネットを使って情報を取り入れることができるようにするという取組はどうなったか教えていただければと思う。事業そのものについては、ここに書いてある事務担当で決めたものに従って活動したいと思う

が、一点だけ教えていただければと思う。

(久保田課長補佐)

歯科医師会の畠山前会長から同じ御指摘をいただいた。この在宅医療介護連携について、推進会議のほうの実務者の皆様に出て来てもらい、実働部隊という形で、課題の整理の試行を重ねてもらっている。協議会は、親会議の立ち位置で、実務者、実行部隊がやったことについて、確認と推進の方向性を決定するというすみ分けをしているところであるが、年に1回で、親部会のほうに情報が入らないのはおかしいという意図である。それを受け、ケア倶楽部に会議録、資料を掲載するというので、協議会委員の皆様には、空いている時間にそちらを確認していただいて進捗状況を見ていただくという形にした。

(狩野敦史委員)

わかりました。ありがとうございます。

(三浦会長)

坂本先生よろしいか。

(坂本委員)

薬剤師会としては、患者や介護が必要な方に対してどうサポートできるかというところを考えていくと、やはり情報の共有をどうするかというところだと思う。取組にも書いてあるが、ケアマネとの連携、他職種との連携、入院から退院される患者に対してのところで、病院との連携と、その情報をいかに共有できるかというところを、まだできていない部分が多々あるので、引き続き、各薬局の先生方にも協力していただき進めていきたい。

先ほど出たケア倶楽部について、各薬局のほうにも連絡が来ているが、それを皆さんが見ているかどうかは、把握出来ていなかったのも、情報を薬剤師会の方としても積極的に動いて、みてもらうようにしていきたいと改めて感じた。

(三浦会長)

星野先生よろしいか。

(星野委員)

私からは大きく2点。病院としてという話とそれから北上市の話を見せていただく。

実際に中部病院に紹介されてくる患者さんは北上半分花巻半分みたいな感じで入院していて、重症の患者さんからたくさん診させていただいている。10年見ていて感じることだが、10年前は往診、医師会の先生から紹介されて私たち中部病院が治療する。救急車で運ばれて治療する。落ちついたら、医師会ないし診療所にお戻りするというのがメインだった

が、この 10 年で最近では、治療はしたが、もとの生活には戻れないという人が増えている。つまり地域が高齢化して、元気な高齢者も増えてきて、ぎりぎりで生活している人たちが何か一つの病気をきっかけに元の生活には戻れずに、市役所のサービスなど、皆さんにお世話になる。そういうことがすごく多くなったと感じているので、在宅医療介護連携というのはすごく大事である。医療だけでは全然済まなくなっていて、システムを作ることも大事だが、結局は、一つ一つの繋がりだと思っている。中部病院には病院と連絡がとれる、連携のためだけの部署があり、20 人ぐらいのスタッフが連携のために働いている。皆さんとこれからも繋がりながら、地域医療を支え地域を守っていきたいということが病院としての価値。

二つ目の話は、北上市の在宅医療介護連携の会議を何年間か一緒にやっており、北上市の ACP と看取りの部分はずごく力を入れていろいろやってきたので、もし花巻市で何かお力になれることがあれば、いろいろお手伝いができると考えている。ACP、看取りもすごく大事で、どう地域の皆さんにいろいろな心づもりをしていただくかは、これから先、地域を支える一つの鍵になると思うので、今後ぜひ頑張っていたきたい。

(三浦会長)

平澤委員をお願いします。

(平澤委員)

私は親会も子会も担当し、毎回お世話になっている。

会議に出て思うことがある。星野先生も話した 10 年前と、今の状況が変わったときに、臨機応変に変えられるような形がとれればと思っていたことが 1 点。

あとは、チーム盛岡とか、市ではなく別のところで拠点を担っている活動もいろいろ噂で聞いたり、実際にそこの所長と話をすることで、現場が欲していることと、今花巻でやっていることが何となくズレがあるような気がする。

例えば現場で、こんな事例があり困っているが、どうすればいいかというときに、ここに相談すれば、これがこういうふう動くというのが本来の拠点なのではないか。市民を助ける現場のスタッフを助けてくれるところがあれば、その現場の人達のスキルを上げて、市民がよりよく生活できる。私の中の拠点のイメージはそういうところだった。

その中で、医師会として、これからこういう風にしていかないといけないなと思っているところや、訪問看護ステーション協議会としての、もっとステーションスタッフのスキルを上げていかないと、普及もしていかないと、という思いを取りまとめてくれるところがあればいいと常々思っていた。

これから 1 年かけて拠点の在り方を検討することはすごくありがたいと思っており、平成 29 年からずっと関わりを持ってきた中で、問題点の抽出はすごく出来ているが、そこから先がなかなか進展していかないと、もどかしさを感じている。ヘルパーや訪看の研

修会があればいい。ショートステイの施設職員、ショート、特養、サ高住がある中で、花巻市で研修会が一個も開催されていないことにすごく大きな疑問を持っていて、それができる拠点になれば、現場のスタッフはありがたい、よかったなと思ってくれると思い、毎回出席している。拠点の在り方の検討で、医師会はどういうところを拠点に求めるのか。ケアサービス団体は拠点にどういうことを求めるのかを、この会議の中だけでなく、市民がどういうことを求めているのかのニーズに合わせた拠点ができればいいと考えていた。

(三浦会長)

佐藤委員お願いします。

(佐藤委員)

私は、病院の看護管理者として、花巻市の在宅医療介護連携が全くわからなかったので、まず病院の管理者同士の繋がりを作ろうと思い、看護管理者会を作った。管理者達が、会に参加する中で、連携のことが少しずつわかってきたが、それを自分の病院のスタッフにどう教育していくかが今の課題になっている。

コロナがこのような形になる前には、いろんな職種と連携をした研修会や、グループワークを通して連携の在り方を考える機会があったが、ここ2年出来ず、また前に戻りつつあると危機感を感じている。

本年度は管理者会の会議は、まだ持っていないが、今年度の活動計画としては、自分の病院のスタッフをどのように連携に関わらせていくかが、課題であるので、この会議を通して、管理者会のやり方も今年度改めて考え直していきたいと思う。

(三浦会長)

伊藤委員お願いします。

(伊藤委員)

包括センターでは先ほど星野先生が言ったように、最近本当に身寄りのない方、あとは支援ができない家族、障害があったり、いろんな事情で疎遠になっている方も多く、非常に困っている。簡易支援に関しても、自宅に帰せないなど、同意、身元保障がないと施設の手続も含め、医療機関の方には御迷惑をかけている。包括センターの職員も入れ替わりがあり、この令和3年で掲げた目標、計画のように、まず自分のスタッフで勉強会をし、ACPを大迫でも東和でも各地区で同じように支援できるように去年から進めている。地域の公民館を回るときに、住民に知ってほしいということでACPに関してと、かかりつけ医のパンフレット、ポスターを持ち、公民館回りを地道に進めているところである。居宅のケアマネジャーとも、一緒にスキルアップしていけるような勉強会をしたいと思いつつ、コロナ禍で、足踏みしている状態である。

(三浦会長)

菊池委員お願いします。

(菊池委員)

情報提供になるが、県のほうからは在宅医療介護連携圏域会議というものについての補助事業の案内をする。これの目的は、医療と介護、連携に係る会議、研修会、講演会等を、単体に委託する事業といった、補助事業的なものになる。対象となる取組は在宅医療及び医療介護連携の現状把握、課題整理の取組など。例えば、医療連携、医療介護連携にかかる情報システム導入。この地域では中部ネットが導入されて、いろいろと連携されている部分があるが、そういうシステムの活用のための取組、発展に向けた研修会といったもの。

そのほかにも対象取組というのがあり、それらについては事業、補助的なものがあり、情報提供したいと思う。例えば講演会やシンポジウム、講義といったものに関して、使えるものである。毎年、年度初めに、関係団体、市町村、医師会、歯科医師会宛にお知らせしている。ただ今回に関しては、去年からもあったが、コロナの状況もあり、集まったの研修会が難しい中で、今後、コロナが終息した際には、そういった事業があるので、活用できればと思う。

(三浦会長)

根子委員お願いします。

(根子委員)

社協では、住民の皆さんや高齢者の皆様が安心して地域で暮らせるための仕組みに取り組んでいるが、地域の人たちが集うサロンが大体、市内で、260か所位あるが、コロナの状況により集まるのが難しく、地域の高齢者の方々の社会参加や、自己実現の機会が減ってきていると懸念される。

懸念される内容としては、地域のつながりが希薄化し、包括からも話があったとおり、単身世帯の方々の見守りなど、網の目が大きくなり、その確認がこれから心配である。

サロンは、介護予防にも、直接間接的に繋がっており、参加が難しくなってくると、要介護状態が進んでいくのが心配である。

現場で感じることは、身寄りのない方が判断能力が低下したときの医療を受ける際、どのようにつなげていくかの難しさ。包括とも連携しているが、家族がいなかったり、援助者がいない方々をどうやって繋げていくかがすごく悩ましいところである。私どものほうでは、日常生活自立支援事業という金銭管理の部分、身の回りのサービスを利用補償する手続きの支援や、成年後見制度の法人による法人後見というのを行っている。繋ぐといった部分は行っているが、まだまだ体制が弱いので、関係する皆さんと連携しながら、取組んでいき

いと思う。

(三浦会長)

上川委員よろしく願います。

(上川委員)

去年まで推進委員のほうで活動させていただいていた。

推進委員のときに、何ができるのかと思いながら、活動、会議に参加していたが、病院の中に閉じこもっている療法士たちにもっと地域を見てほしい。施設、在宅、帰った先のことをどれだけあなたたちは見ているか。という切実な叫びを聞いたような気がする。なかなか地域に出られないまま、若いスタッフに、高齢者の生活をどれくらいリアルに感じて浸透させることが出来るかというところに、課題を感じながら日々仕事をしている。私たち専門職の側から見ても、地域の現場にいるスタッフともっと直接コミュニケーションをとり、例えば入退院時に、こういうところに気をつけている。これはできる、これは大丈夫、こういうことを望んでいるということを、サマリーで終わらせないで、もっとリアルに伝えられるつながり、身近で話せる関係づくりや、場所があればいいなと切実に感じている。

例えば、この1、2年でオンラインが発達して、広域支援センターも相談窓口をメール、電話相談という形で設置しているので、もっとオンラインを使って現場の方たちと、療法士が顔を見ながら、コミュニケーションをとったり、実際に在宅にカメラを持ち込んでもらい、家の状況を見せていただくことができればいいと少し考えており、とっかかりとしてそういうプラットフォームが欲しいと感じている。訪問するのが1番いいと思いながら、毎日の急性期回復期の患者との戦いの中で、なかなか在宅でしっかり動けるところまでもって行けずに、その入り口で終わって退院させてしまう現場の歯がゆさもあり、そこにどう繋げていくかというところをぜひ皆さんの御意見を聞きながらつくっていけたらいいと思う。

(三浦会長)

医師会の立場から、ここに参加の皆さまにまずは感謝を申し上げる。

大体の高齢者は、どこか医療系の障害を持っており、何処かの医院、病院に罹っている。在宅の方は在宅医だけでなく、専門の開業医に行ったりする。皆様の助けを借りて診察している。私の場合だと褥瘡などをよく診るが、そのときに直接ケアマネージャーと話をし、ここはこういうふうにしなきゃいけないという風に、ケアマネージャーと患者について直接話をする。例えば、介護認定を受けていなく、一人暮らし、市役所の介護の利用法がわからない患者には、包括支援センターを紹介し、こういった方がいるが、どのように話を進めたらいいかと相談をしている。各医師のほうでも、高齢の介護を必要な患者をどうしようかと一所懸命考えている。

こういう会議を通じて、拠点が作られたわけで、それを基準に連携を強めていけばいいと

思っているところである。皆さんのご意見を聞いて思いを強くした。

今までの皆さんの話しを聞いて特に意見のあるかた、ご質問のあるかたはあるか。事務局のほうから何かあるか。

(久保田課長補佐)

推進会議のほうに実務者の方を出していただいている。推進会議の委員というのは、各機関、団体の代表として出してもらっている。各団体機関に進捗状況を伝えてメッセージの役割を担っていただくということも、切にお願いしたいところである。

こちらの会議については年に1回ということで、推進員を通じて進捗状況や、今年は拠点もしくは取組についての振り返り、評価をするということなので、どういう方向性で行っているかということを皆様につきましても時々聞いていただければありがたいというふうに思う。

(三浦会長)

皆様からなければ、3番の協議を終了したいと思う。これで議長を退任する。

(久保田課長補佐)

令和3年度の取組について皆様の御発言を聞きながら後押しをしていただいたと思っている。

次に、次第の4その他ですが、皆様から何かあるか。

ないようなので、これもちまして、令和3年度花巻市在宅医療・介護連携推進協議会を閉会とさせていただきます。